



令和 8 年 1 月 26 日
秋 田 大 学

心臓ホルモン「ANP」の分泌スイッチを同定 心房 TRPM2 がストレス時のカルシウム流入を介して 心肥大と線維化を抑制

秋田大学大学院医学系研究科の沼田朋大 教授・渡邊博之 教授らの研究グループは、心臓がストレスを受けた際に分泌するホルモン「ANP（心房性ナトリウム利尿ペプチド）」の分泌を制御する鍵分子として、心房 TRPM2 チャンネルを世界で初めて同定しました。TRPM2 がストレス下で活性化し、カルシウム流入を介して ANP 分泌を促すことで、心肥大や線維化の進行を抑制することを明らかにしたものです。

本研究は、TRPM2 が従来の「細胞傷害に関わる因子」という理解を超え、心臓を守る内分泌制御因子として働く新たな役割を示した点で大きな意義があります。ANP 分泌のメカニズム解明は、心不全の進行抑制や新規治療標的の開発につながる可能性があり、心不全パネデミックが深刻化する中で重要な知見となります。

本成果は、国際学術誌『Cells』オンライン版（2025 年 12 月 22 日公開）に掲載されました。詳細は別添資料を御参照ください。

つきましては、是非、本研究への取材を御検討いただけますようお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

(研究内容)

秋田大学大学院医学系研究科
器官・統合生理学講座

教授 沼田 朋大 (ヌマタ トモヒロ)

電話：018-884-6272 / FAX：018-836-2605

Email：numata@med.aktia-u.ac.jp

(その他)

秋田大学医学系研究科・医学部総務課長
小柳

電話：018-884-6005 / FAX：018-884-8619

Email：m-soumu@jimui.akita-u.ac.jp